

第2回近畿周産期精神保健研究会 会長挨拶

現在高度医療技術の著しい発展に伴い、今まで助からなかったハイリスク児の救命ができるようになり、一部では周産期医療の最終目標である **Intact survival** する児も増えてきました。一方、本来回復不可能な予後不良児の延命も人工呼吸器などで可能となり、そうした重症児のトータルケアをどのように支援するか、どこまで **endless** に侵襲的治療介入を行うか、なども臨床現場での大きなテーマとなっています。今回周産期医療に関わる専門職や地域での医療・福祉関係者が、こうした児と家族にどのように寄り添い、「こどもの最善の利益」に焦点をあてて多職種協働で **patient & family-centered care** を支援するか、というテーマで考えたいと思います。是非多くの方々の参加をこころから期待しています。

船戸正久